

第三節

第一次「ノモンハン」事件第一、第二回出動ヲ通シ
テ觀察シ得ル關東軍ノ紛爭處理ノ方針ニ就テ

一 本紛爭處理ノ方針ハ之ヲ一言ニ言ヘバ關東軍司令部トシテハ全ク
滿「ソ」國境紛爭處理要綱ノ主義ヲ其ノ儘實行セントシタルモノ
ニシテ以下記述スル所ニ依リ之ヲ觀ルヲ得ベシ

二 第一回出動ハ國境紛爭處理要綱ノ精神ニ基キ防衛司令官タル第二
十三師團長ガ獨斷ヲ以テ決行ヲ決意シ而シテ之ニ依リテ生ズル兵
力上ノ缺陷ノ補填ニ關シ關東軍司令官ニ要求シ來リ軍司令官第二
十三師團長ノ處置ヲ認メ之ニ伴フ處置ヲ採リタルモノナルコト別
紙第五、第六ニ依リ明カナリ

別紙第五

電報翻譯用紙

平暗電

報(一)

翻譯者

陸

軍

昭和十四年

五月十三

日午前四時五分ハラル
日午前四時五分電信局所受付
日午前四時五分電報班受付

電報
電信

配布先

1、2、3、一別、二別、新副兵、航、兵、經、醫、獸、法、研、事

關東軍司令官

宛

發信者

第二十三師團長

秘

小本參電一九四共一五

一昨十二日朝表外蒙軍少クモセロハアモシハ南方地

區ニ於テハ哈爾哈河ヲ渡河シ不法越境シ來リ

十三日朝表滿軍一部ト交戦中

尚後方ヨリ増援アルモノナリ

ニ防衛司令官、師團ノ一部（搜索隊長指揮スル
搜索隊ノ主力及歩兵大隊長指揮スル中隊
ヲ基幹トスルモノ）及在海満軍ノ全カヲ以テ此ノ
敵ヲ撃滅セントス之カ爲ニ海軍用自動車ノ

○^{不明}及海陸兩敵發自動車ヲ使用ス

從テ海陸兩ニ今後軍用ニ使用シ得ヘキ自
動車皆無トナル

○^{不明}爾後増兵ヲ考慮シ少クモ一〇〇臺ノ自動

平暗電

報()

翻譯者

昭和 年 月

日午前 時
日午前 時
日午前 時分 分 分
電信局所受付
電信局所受付
電信局所受付香 香
港 港
電 電
報 報

配布先

1、2、3、一別、二別、新副、兵、航、兵、終、機、隊、法、研、事、兵

宛

發信者

車ヲ急派セシメラレ度

尚將來ノ自動車増派ヲ考慮セラレ度

又隨時防衛司令官、使用ニ供シ得ル如ク偵察

飛行機ヲ海柱爾ニ急派待機セシメラレ度

尚在海戰部隊ヲ一時防衛司令官、指揮下ニ

ラシメレ度

戰場附近ニ集メ得ル満軍ノ兵力ハ最大限約三〇
名ナリ

者	曹	員	官	部	課	官	司	軍
				寺田	大野	磯谷	植田	
三	二	飛	行	集	團	長	八	飛
行	等	十	戰	隊	(一)	中	隊	欠
二	三	師	團	二	一	部	兵	力
増	加	セ	ン	ト	ス			
六	軍	八	滿	領	二	侵	入	セ
ル	外	蒙	兵	ヲ	膺	懲	ス	ル
爲	第							
リ								
ヲ	侵	犯	シ	第	二	三	師	團
ハ	之	カ	攻	撃	ヲ	準	備	中
ナ								
一	外	蒙	兵	約	七	〇	ハ	フ
モ	ン	ハ	ン	南	方	ニ	於	テ
滿	領							
關	東	軍	命	令				
新	京	軍	司	令	部			
五	月	十	五	日	十	七	時	
關	作	命	第	一	四	九	六	號
名	件	名	宛					
署								
任	主	書	淨					
辻								

別紙
案紙

陸

軍

1177

飛行第二十四戰隊、第四十八飛行場大隊（一部）
及第五十一飛行場大隊ヲ海拉爾ニ於テ第二
十三師團長ノ指揮下ニ入ラシムヘシ
地上勤務員輸送、爲ス「バー」輸送機（滿航
所屬）各一機ヲ四月十四日十時白城子陸軍飛
行場ニ於テ飛行第十戰隊長及第四十八飛行場
大隊長ノ指揮下ニ入ラシム
前項飛行機ハ海拉爾到着後其ノ配屬ヲ解キ
原所屬ニ復歸セシムヘシ

署 帶 送 員		司令官 官 署	
案 紙		第 號	
一月		日 午 前 時 分 發 昭和 年 月 日 起 案	
名 宛		名 署	
名 件		任 主 署 務	
四自動車第一聯隊長ハ應急派兵ニヨル師富少佐 ノ指揮スル中隊ヲ海拉爾ニ到ラシメ第二十三 師團長ノ指揮下ニ入ラシムハシ 五關東軍野戰鐵道司令官ハ前諸項ニ基ク鐵 道輸送ヲ處理スハシ 六細部ニ關シテハ關係部隊長相互協定スハシ			

關東軍司令官植田大將

下達談、^{17D}自一野司、命令受者^{23D}達^{23D}電報後印刷交付

報告通報表、總長各所、衛司令官、憲司、顧問部、部内

第七ノ如シ
以上關東軍ノ探リタル處置ニ就キ報告セルニ對シ次長ノ返電別紙

1181

別紙第七

電報翻譯用紙

陸軍

平暗電

報(一)

翻譯者

昭和十四年五月十四日

日午前午後零時五分
日午前午後一時
日午前午後二時五分
分電信局所受付
分電報班受付

番信 番報
號信 號報

配布先

1、2、3、一別、二別、新副、兵、航、機、醫、獸、法、研、事

關東軍參謀長

宛

發信者

參謀次長

秘

參電三二三

一、關參一電第二九號及關參二電第五三六號受領ス

二、軍、適切ナル處置ヲ期待セラレアリ

[illegible]

1183

五月十六日東支隊目的ヲ達シテ海拉爾ニ引舉ゲタル直後敵方再ビ越境侵入シ來リタル件ニ關シ第二十三師團長ヨリノ報告ニ接シタルカ之ニ對シ關東軍トシテ處理上希望シツツアリシ所左ノ如シ

敵ガ一步國境ヲ越エタリトテ直ニ不用意ニ出動スルハ急變成功ノ道ニアラズ特ニ「ノモンハン」ノ如ク同一地點ニ數回繰リ返ヘサル紛爭ニ於テハ從來ノ例ニ見ルニ我ガ對策十分ナラザル場合ニハ却テ敵ニ致サルハ懼アリ

2 「ハルハ」河右岸ニ暫ク敵ヲ滯留セシムルガ如キハ問題ニアラズ靜觀以テ機ヲ伺ヒ敵ノ油斷ニ乘ジ一舉ニ急襲スル機ヲ捕捉スルコト最モ必要ナリ

然ルニ二十日ニ於ケル師團長ノ報告ニ就キテ觀ルニ防衛司令官ノ責任上敵ヲ「ハルハ」河右岸ニ滯留セシムルヲ好マズシテ早急ニ出動セントスル意圖アルガ如キ印象ヲ受ケタルヲ以テ此ノ點ニ關シ關東軍ノ企圖ヲ通スル爲メ二十一日別紙第八ノ參謀長電ヲ發電セリ

別紙第八

園電第777號

5月 21日午前 時 分 昭和 年 月 日 起案

陸軍

海拉爾

小松原部隊參謀長宛

參謀長

任主書

服部

至急 暗電 (極秘)

通報第一二号返

東方國境等ニ於ケル既往ノ經驗ニ鑑ミルニ本情
況ノ如ク同一地兵ニ連續的ニ紛争ヲ續ケ蘇軍
カ之ニ誘致セラレテ逐次兵力ヲ増加シ其ノ注意
光銳化シ来ソタルカ如キ場合ニ於テ寧ロ此際
膠琛クハルハ河ノ線ニ拘泥スルコトヲ暫ク情況

ヲ靜觀シ要スルハ長時日ニ互リ全ク我カ注意ヲ
他ニ轉シタルカ如ク装ヒ逸シ以テ力ヲ待テ敵ヲ
蒼ラシメ敵ノ深ク國境内ニ侵入セル場合十分準備
備フ整ヘタル後舉ニ殲滅的打惠ヲ与ルノ策ニ出
ツルヲ有利トスル如ク考ヘラル
「モンハン」事件ハ当初ヨ西ニ有利ナル戦ヲ交ヘタル我
オトシテハ寧ロ懸ノ如キ次第出テ以テ奇功ヲ奏スル如ク
処置スルヲ大局上第ヲ得タルモノト思考セル貴見
如何、右命ニ依リ。

然ルニ當日恰モ參謀長會議出席ノ爲關東軍司令部ニ出頭セル第二十三師團參謀長大内大佐ニ參謀副長及寺田參謀ヨリ軍ノ意圖スル所ヲ説明セシニ同參謀長ハ小官海拉爾出發ニ當リ作戰主任參謀ニ申シ置キタル所ハ全ク軍ノ企圖セラルル所ト同様ナリ 小官出發後此ノ方針ヲ變更シテ直チニ出動ノ決心ヲ執ラレタルモノノ如キヲ以テ重ネテ軍ノ企圖ヲ電報スベシトテ別紙第九ノ發電ヲナス

別紙九
案紙

関参電第242號

5月21日午前時 分 昭和 年 月 日 起案

陸軍

小松原部隊長

参謀長

任 主 書 簿

小松原部隊参謀長ヨリ

事件ノ対策ニ関シ軍司令部ニ於テ打合セラ為シタル結果

小官ノ意見左ノ如シ

一事件処理ニ関スル軍意獨ニ関参電七七号ノ如クニ

シテ更ニ之ヲ更件ノ速ニレハノモシシ附近ノ外蒙軍ニ対

シテハ各分隊軍ヲシテ之ヲ監視シテ寧口防領内ニ

誘致シ日本軍ハ海拉爾ニ在リテ修々情勢ヲ觀望シ外
蒙軍主力カ越境セルヲ確認シ後急遽出勤シテ
之ヲ國境內ニ於テ捕提殲滅スルアリ之ヲ爲テ稍
長時日間國境ヲ敎ニ委シタルカ如キ觀ヲ呈スル
アルモ大局上差支ヘナシ
ニ若シ山縣ハ隊ヲシテ既ニ出發セシメタル場合ハ成ルハ
ク速ニ目的ヲ達シ海拉爾ニ歸還セシメラルヲ適當ト
考ヘラル

三、夜中戰ニ就テハ我カ飛行隊ノ勇猛果敢ナル行動ニ

陸軍省 陸軍部 陸軍大臣 陸軍少将 陸軍中將 陸軍大佐 陸軍少佐 陸軍中佐 陸軍大尉 陸軍少尉 陸軍中尉 陸軍大士 陸軍少士 陸軍中士 陸軍大兵 陸軍少兵 陸軍中兵 陸軍大卒 陸軍少卒 陸軍中卒 陸軍大兵 陸軍少兵 陸軍中兵 陸軍大卒 陸軍少卒 陸軍中卒									
第 一 月 日 午 時 分 發 昭 和 年 月 日 起 案									
名 件 名 宛									
敬 意 ヲ 表 ス 然 レ ト モ 在 海 拉 爾 飛 行 隊 將 兵									
積 極 果 敢 ナ ル 心 理 狀 態 ヲ 洞 察 ス 二 狀 況 ニ ヲ リ テ									
大 局 的 見 地 ヲ 其 行 動 ニ 基 礎 度 ノ 判 断 ヲ 加 フ									
ル ノ 要 ア リ ト 思 考 セ ラ ル									
以 上 落 下 ノ 決 心 ニ 及 ス ル カ 如 キ 意 見 具 申									
ニ テ 甚 ヲ 恐 縮 ナ ル モ 軍 司 令 等 ニ 於 テ 十 分 打 合 セ									
任 主 署 海									

ヲ為シタル結果ニ付不悪

六軍ハ爾後ノ情勢ノ變化ニ應ズル爲第二十三師團ニ一部航空兵力ヲ
増加スルノ處置ヲ執リ之ニ關シ中央部トノ間ニ別紙第十、第十一
ノ電報ヲ交換ス

1192

別紙第十一

電報翻譯用紙

陸軍

平暗電

報(一)

翻譯者

昭和十四年

五月二十四

日午前午後十一時
日午前午後十二時
日午前午後十二時五十分
東京發
電信局所受付
電報班受付

番着番
號信號報

配布先

1、2、3、一別、二別、新、副、兵、航、兵、經、營、獸、法、研、事

軍參謀長

宛

發信者

參謀次長

極秘親展

參電四九一號

一關參一電第二四九號及關參二電第五九三號受

領

上聞セラル等

二關參一電第二四九號、要旨ニ基キ軍、適カナル
處置ニ信賴セラレアリ

七軍ハ第二十三師團ノ企圖スル山縣支隊ノ出動ヲ是認シ次イデ起レ
ル戦闘ニ關シ通報報告セシ所別紙第十二、第十三、第十四ノ如シ

1197

ニ連繫シ敵ニ戒搜索ニ任セシメアリ

ニ師團ハ敵ノ満領内ニ深ク越境スルヲ待テ之ヲ急
襲滅スルヲ企圖シ局部的ノ小衝突ヲ避ケ
ツツアリ

別紙第十三

開参書

第二六四號

昭和 年 月 日 午前 時 分 發 昭 和 年 月 日 起 案

29 日 午 前 11 時 40 分 發

次 長

極 秘 至 急

名 署

參謀長

任 主 署 附

辻

辻 夫 好 機 日

一、山縣支隊、戰果ハ敵遺棄屍體ニヨリ破壊戰車
一口、重機二、輕機三、暗號書其、他多數戦、損害
戦死、約三口、戦傷約七口
二、敵ハ本朝來再ヒハルハ、河ヲ渡リ攻撃シ來レルヲ以
テ第二十三師團ハ更ニ一部ノ兵力ヲ増加シ敵ヲ徹底
的ニ破碎シタル後自主的ニ行動ヲ律スルノ企圖ヲ

1200

有久

三本朝永敵機活動誌

別紙第十四

閣下

第九二號

一月

日午

後時

分發

昭和

四年

八月

十日

日

定案

代
大野

寺田

服部
三好

名 宛

次長 次官

極秘

名 署

參謀長

任 主 審 察

服部

一、ノモンハン附近ノ敵ハニ十六日ハルハ河「ホルステン」
河合流點北側ニ橋梁ヲ架設シ逐次ハルハ河右
岸ニ地歩ヲ占メ該橋梁東北方約八料附近ニ陣地
ヲ構築セリ

二、山縣支隊ハ滿軍ト協力シテ此ノ敵ニ徹底的打撃ヲ
與ヘ爲テ十七日夜機動ヲ開始シ滿軍ハ敵ノ東北並

南方より支隊ハ北方（マダボレイ湖方向）ヨリ前進シ、六日
十時頃全ク奇襲ヲ以テ一舉橋梁附近ニ楔入シ敵ヲ
包圍シテ之ニ一火打撃ヲ與ヘタリ

三師團ハ同夜支隊ヲ離脱セシムル企圖ナリシカ各部隊
ハ各所ノ敵ト混戦シテ廣地域ニ四散シ兵ヲ徴シ難ク
二十九日依然前位置ニ停止セリ然ルニ該位置ハバルハ
河南岸臺上ノ敵砲兵ヨリ瞰制セラレ之ニ依ル損害ト
退路ヲ失ヒシ敵ノ窮鼠的攻撃トニ會ヒ終日激烈
ナル戦斗ヲ交ヘ我カ死傷二百（詳細未調査未了）ヲ越エ

兵力ヲ加ヘ敵ニ對シ更ニ打撃ヲ與ヘタル後同日夜敵
ト離脱シテ甘珠爾附近ニ兵力ヲ集メ爾後ノ狀況ヲ
監視スル豫定ナリ

本三十日夜左齊々哈爾重爆三中並飛行場大隊ニ應
急派兵ヲ下合シ師團長ノ指揮下ニ入リシム

二十九日以降敵ノ飛行機ハ殆ト活動セズ

五以上ノ戦闘及空中戦ニ依リ敵ニ與ヘタル打撃ハ甚大
ナルモノト認ムルモ諸情報ヲ綜合判斷スルニ本事件ハ
今後著シク擴大スルノ虞ナキモノト認ム

ハ第一次「ノモンハン」事件ノ綜合的報告ニ對スル次長ノ祝電別紙第十五ノ如ク同電中ノ兵力資材ノ増派ノ要ナキヤトノ照會ニ對シ別紙第十六ノ返電ヲ發セリ

九所見

ノ第一次「ノモンハン」事件ハ中央、軍、師團ノ連絡比較的順調ナルヲ見ルベク第二次「ノモンハン」事件ニ於ケル中央竝ニ軍トノ關係ト比較シテ好對稱ト謂フベシ

2. 關東軍ヨリノ諸種ノ報告ヲ通シテ見ラルル事項ハ終始事件ハ是以上全面的ニ擴大セザルベキコトニシテ顯著是レ關東軍ノ深ク信ジアリタル事項タルト共ニ中央ハ本件ニ關シ特ニ銳敏ナルヲ察知シアリタル證左ナリ

3. 第一次事件ノ處理ハ概シテ順調ナリシガ此ノ處理ハ全ク對「ソ」國境紛爭處理要綱ヲ實行セシモノニシテ我方作戰行動ハ主トシテ防衛司令官ノ獨斷ニ依リタルモノナルコトハ注意ヲ要スル點ナリトス之ニ對シ中央ハ祝意ヲ表シ國境紛爭處理要綱ニ關シ何等意見ヲ述べ又ハ指示ヲ與フル處ナシ

別紙第十号五

電報機用紙

平 暗 電

報 ()

翻譯者

陸 軍

昭和十四年 五月三

日午前十六時五分東京發
日午前六時 分電信局所受付
日午前二時五分電報班受付

着信番號
着信番號

配布先

1、2、3、一別、二別、新、副、兵、航、經、鐵、獸、法、研、兵、事

參謀長

宛

發信者

參謀次長

極 秘

參電五四七

ハモンハンニ於ケル貴軍ノ赫々タル戰果ヲ慶祝ス

外蒙軍及赤軍カ人ヲ殺害ニ同方面ニ兵力ヲ増加シテ

侵入ヲ企圖スル場合ニ於テ貴軍ノ企圖特ニ使用兵

1209

力壯ニ之カ遂行上滿洲増派ヲ要スル兵力資材アラハ
通報アリ度

翠
紙

南卷一

5月31日 午前14時35分 昭和4年 日起案



31

參謀次長

暗電
極秘

參電五四七返

一、軍ハ長期ニ亘リ敵ト對峙スルカ如キ情況ニ
陷ルヲ避ケ主トシテ航空部隊ト地上部隊ノ
機動トニ依リ越境シ來ル敵ニ面敵的ニ大打撃
ヲ与フルコトヲ企圖シアリ

二、敵全般ノ情況並ニ「毛ハ」附近ノ地理ヲ判斷シ

テ敎ハ此ノ方面ニ更ニ甚シク大志地上兵力ヲ使用ス
モノトハ判断シアラス而シテ假ニ其ノ兵力ヲ増加ス場
合ニ於テモ第三師團、軍ノ現ニ有ル航空兵力並
軍直轄シ隊ノ切ヲ以テ第一項軍ノ企圖ヲ達ス
シ得ルモノト確信シアリ

三、前電ニテ報告セルカ如ク本事件カ全面戦争ニ拡大
スル等ノ事ハ万葉無キモノト信スルモ彼我全般的
ノ緊張ハ他ノ方面ニ於テ小事件ヲ惹起スヲナキ
ヲ保シ難シ 此ノ際當軍作戰準備上ノ最

[illegible]

1214